

無量寿経の同聞衆について

岡 本 嘉 之

一
仏典には釈尊の会座に集まった人々の名が列記される。これを同聞衆と呼ぶ。同聞衆は經典によりかなり相違する。

本稿は、無量寿経と他の經典の同聞衆を比較し、形式面からみてどのようなことが言えるか考察するものである。

無量寿経の漢訳は五本ある。筆者は漢訳五本と梵本(足利本)の対照表を作成したが、本稿では紙面の都合で『阿弥陀三耶三仏薩樓檀過度人道経』(略号『大阿』)・『仏説無量清淨平等覚経』(同『平等』)と梵本の対照部分のみを示す(表一)。

『平等』は時として比丘の行実をもとにした語である。⁽³⁾伝写上問題があるが、同聞衆として説かれる比丘名とその記述の順番は、初期のものから後期のものまでそれほど変化がなかったと思われる。後述するように、五比丘・ヤシューデーヴァとその友人・三迦葉・舍利弗・大目乾連等が続ぎ、終わりは羅睺羅・阿難である。

なお、比丘名の後に『平等』は比丘尼名が、『仏説無量寿経』(略号『無量寿』)『無量寿如来会』(同『如来会』)は菩薩名が書かれている。

以下に他の漢訳經典の同聞衆について見てみる。

〔一〕 阿含部

同聞衆の記述があるのは四例で、いずれも比丘名のみ。

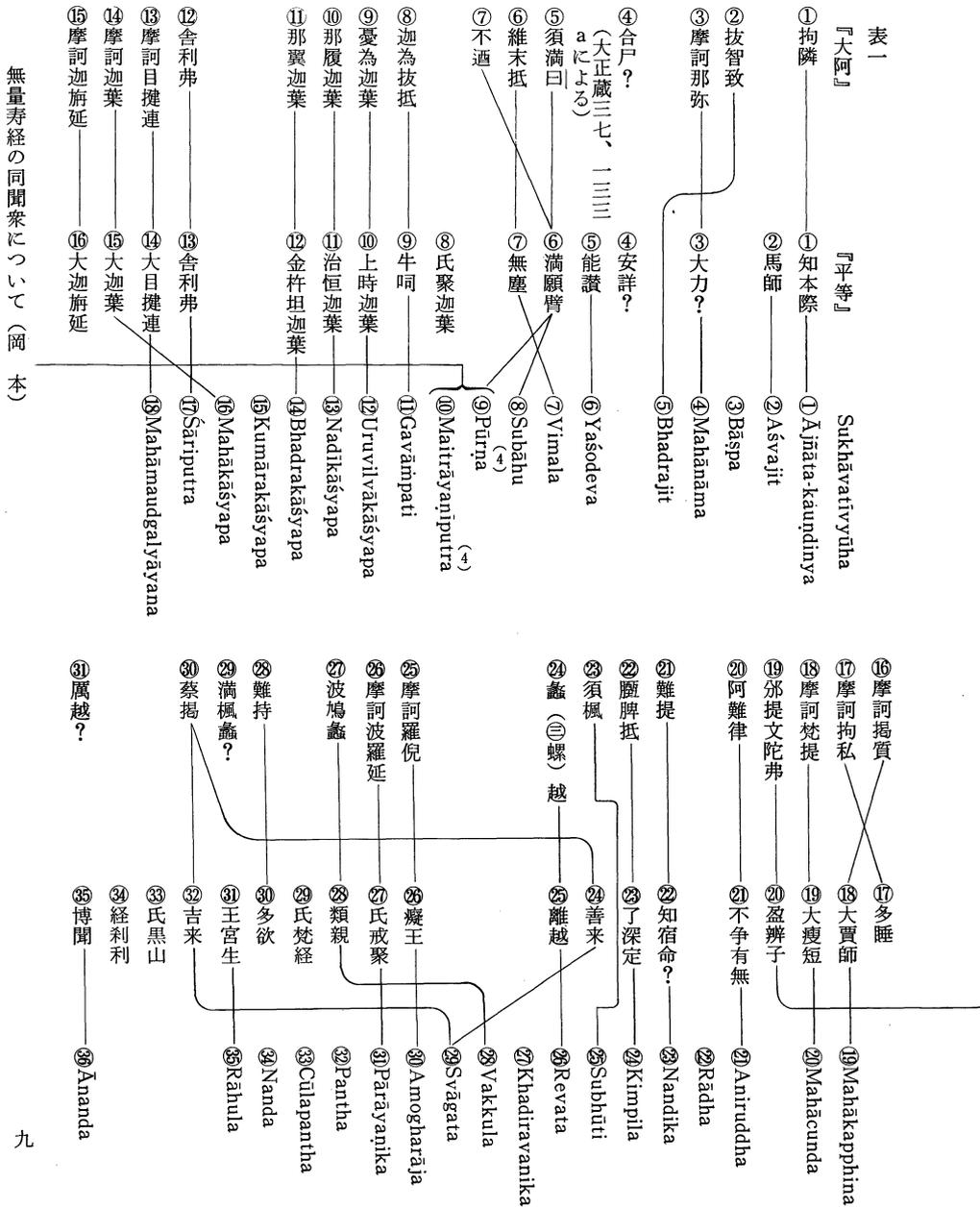
(一) 『中阿含経』(東晋・僧伽提婆訳。隆安元年～二年 A.D. 387) 卷第四十八、双品牛角婆羅林経。……①舍利子②大目連③大迦葉④大迦旃延⑤阿那律陀⑥離越哆⑦阿難

(二) 『仏説新歳経』(失訳。『出三』卷三)……①舍利弗②目連のみ。なお、異訳が五本あるが、いずれも同聞衆の列記無し。

(三) 『増一阿含経』(前秦・曇摩難提訳。建元二十年～二十一年 A.D. 384～385 『出三』第二・卷九) 卷二十九。……①舍利弗②大目乾連③迦葉④離越⑤阿難(同聞衆の記述の直後に阿那律の名あり)。

(四) 『同上』卷四十六。……①舍利弗②大目乾連③大迦葉④阿

表一



無量壽經の同關係について (岡本)

那律⑤離越⑥迦旃延⑦滿願子⑧優波離⑨須菩提⑩羅云⑪阿難上記の四例とも第一に舍利弗、第二に大目犍連(目連。大目乾連)の名が出る。(一)・(二)は『無量寿経』の同聞衆の次第に近い。四は中頃の比丘名の次第が『無量寿経』のそれと相違している。なお、⑧優波離は『無量寿経』には出てこない。

阿合部の同聞衆には五比丘より三迦葉までの名が無い。

二二 本縁部

四例あり、阿合部より発展した形を示すものがある。また、菩薩の名も列記するものがある。

(一) 『生経』(西晋・竺法護訳。泰始元年～永嘉二年 A.D. 265～308) 卷第二、「仏説比丘各言志経」第十六。……①舍利弗②大目連③迦葉④阿那律⑤離越⑥苾芻文陀弗⑦須菩提⑧迦旃延⑨優波離⑩離垢⑪名聞⑫牛呬⑬羅云⑭阿難

(二) 『大方便仏報恩経』(失訳) 序品第一。……①摩訶迦葉②須菩提③憍陳如④離越多⑤訶多⑥富樓那弥多羅尼子⑦畢陵伽婆蹉⑧舍利弗⑨摩訶迦旃延⑩阿難⑪羅睺羅(④⑤疑問)

この後に菩薩の名が書かれる。

(三) 『大乘本生心地観経』(唐・罽賓国三藏般若訳。元和六年 A.D. 810) ……具寿阿羅漢として①阿若憍陳如②阿史波室多③摩訶那摩④波帝利迦⑤摩訶迦葉⑥憍梵波提⑦離波多⑧優樓頻螺迦葉⑨那提迦葉⑩伽耶迦葉⑪舍利弗⑫大目犍連⑬摩訶迦旃延⑭摩訶迦毗那⑮真提那⑯富樓那弥多羅尼子⑰阿尼樓駄⑱微

妙臂⑲須菩提⑳薄拘羅難陀㉑孫陀羅難陀㉒羅睺羅の名を出した後、有学の阿難陀の名を出す。さらに菩薩・六欲天子・色界天子・大龍王等の名が続く。

四 『仏説普曜経』(西晋・竺法護訳。永嘉二年 A.D. 308) ……菩薩の名のみ記載あり。

『方广大莊嚴経』(唐・地婆訶羅訳。久視元年 A.D. 700) 『仏説普曜経』の異訳 ……①阿若憍陳如②摩訶迦葉③舍利弗④摩訶目乾連⑤摩訶迦旃延⑥富婁那弥多羅尼子⑦摩訶南⑧阿菟婁駄⑨劫賓那⑩跋提羅⑪優波離⑫難陀⑬娑伽陀⑭阿難⑮羅睺羅。この後に菩薩名あり。

本経の梵本は Lalivastara (略号 Lv)。比丘名と比丘名の次第は『無量寿経』の梵本 Sukhavatiryūha に近い。

二三 般若部

『放光般若経』『光讚般若経』『摩訶般若波羅蜜経』『大般若経初会』『同 第二会』『同 第三会』に出てくる同聞衆は菩薩のみで、共通する名が多い(表は省略する)。

『道行般若経』では弟子の代表として①舍利弗②須菩提が、菩薩の代表として①弥勒②文珠師利の名が書かれ、『大明度経』には「弟子善来第一、及大衆菩薩無央数」とあるのみ。

同聞衆として比丘名が書かれるのは『大般若経第六会』である。まず比丘として①解憍陳如②大迦葉波③笈防鉢底④褐麗筏多⑤大采(㊦「採」)菽氏⑥大迦多衍那⑦畢蘭陀筏蹉⑧舍

利子⑨満慈子⑩薄俱(⑪「矩」)羅⑪鄔波羅⑫羅怛羅⑬無滅⑭善現の名を出し、次に菩薩名を出す。

〔四〕 法華部

(一) 法華経の同聞衆は五比丘の中からただ一人阿若憍陳如が出、ヤショーデーヴァおよびその友人の名は無いが、摩訶迦葉より羅睺羅に至るまで、無量寿経と同様の比丘名が出る。

(無量寿経よりも比丘名が少なく、順番がかなり異なる)。『正法華経』(西晋・竺法護訳。太康七年 A.D. 286)の例を左に示す。

①知本際②大迦葉③上時迦葉④象迦葉⑤迦迦葉⑥舍利弗⑦大目犍連⑧迦旃延⑨阿那律⑩劫賓菟⑪牛呵⑫離越⑬譬利斯⑭薄拘盧⑮拘絺⑯難陀⑰善意⑱滿願子⑲須菩提⑳阿難㉑羅云

この後に菩薩等の記述が続く。

(二) 『仏説菩薩行方便境界神通變化経』(失訳。宋・求那跋陀羅訳とするは誤り)……①舍利弗②大目犍連③摩訶迦葉④阿尼捷陀⑤須菩提⑥大迦旃延⑦摩訶劫賓那⑧離波多⑨波賓那⑩難提翅那⑪那提迦葉⑫伽耶迦葉⑬富樓那弥多羅尼子⑭憍梵波提⑮那陀翅那⑯周梨(⑰宮利)般特⑱闍婆摩羅子⑲呬陀婆林⑳難陀㉑摩訶拘絺羅㉒羅睺羅㉓阿難(異訳の『大薩遮尼乾子所説経』も同様)次に二人の比丘尼、菩薩達の名が続く。

(三) 『金剛三昧経』(失訳)

比丘名としては①舍利子②大目犍連③須菩提が、次に二名の菩薩、三名の長者の名が出る。

無量寿経の同聞衆について(岡本)

四 『無量義経』(曇摩伽陀耶舍訳。建元三年 A.D. 481)

二十九名の菩薩の後に、二十一名の比丘名が出てくる。第一番目が舍利弗で最後が那提迦葉であることからわかるように、順番は他の経典と大いに相違する。

〔五〕 華嚴部

華嚴部の経典の同聞衆は菩薩のみである。他の部については次の機会に調べたい。

二

阿含部の例は四例のみで、同聞衆は比丘だけである。舍利弗を筆頭とし、無量寿経に出てくる五比丘より三迦葉までの比丘名は出ない。同聞衆の記載の初期の段階を示している。

本縁部の例はやや発展した段階を示す。一例は比丘名のみ、他の三例は比丘・菩薩名ともに記載する。『方広大莊嚴経』には比丘・菩薩名ともに記述があるが、その古訳『仏説普曜経』は菩薩名の記述のみ。『方広大莊嚴経』と相当する梵本 *Taliavistara* の比丘名の順番は異なる。LV における配列は、無量寿経の諸本に近い。

般若部の経典は大部分菩薩名のみ記載する。『大般若経第六会』は比丘・菩薩名ともに記載するが、例外である。

法華部の経典は比丘・菩薩名の記載があり、華嚴経は菩薩名のみ記載されている。

無量寿経諸本に記載される同聞衆としての比丘名の配列は「V」のそれに近いが、「V」が無量寿経に影響を与えた、とは考え難い。「V」は仏伝經典であるので、古い仏伝經典が兩經に影響を与えたことが考えられよう。

仏伝經典の中で最も早い編纂とされる『太子瑞應本起経』(支謙訳。呉黄武元年(建興二年 A.D. 232~233)は仏弟子としてまず「阿若拘隣等五人」をあげ、次に三迦葉をあげる。

『中本起経』(後漢・康孟詳訳。建安年中 A.D. 196~220『出三』卷三)は五比丘・宝称とその四人の友人・三迦葉の出家を述べるが、還至父国品第六では比丘達のことを「賢者舍利弗・大目犍連・鬱俾迦葉・那提迦葉・伽耶迦葉(以上三名はつまり三迦葉)等一千二百五十人」と記述する。

『仏本行集経』(隋・闍那崛多訳。開皇七年(十一年 A.D. 587)S3)は弟子列伝の箇所では五比丘・耶輸陀と四人の友人・富樓那・大迦旃延・三迦葉・大迦葉・舍利弗・目犍連・優波離・羅睺羅・難陀・提婆達多・阿離等の出家が述べられる。また、卷五十三「優陀夷因縁品」では釈尊の左右に坐す弟子として目犍連を筆頭に離波多まで九名の名を出す。

右の仏伝よりもさらに古い資料として、パーリ律健度部(平川彰博士「部派仏教時代に現在の形に整備」) 大品を見ると、釈尊の成道後、①五比丘②ヤサと四人の友人③三迦葉④サーリプッタとモツガッラーナが順次出家したことが描かれる。

これらの比丘名は無量寿経の同聞衆の前半と共通し、順番もほとんど同じである。無量寿経の同聞衆の前半は初期の仏伝の伝承を伝えているものと思われる。無量寿経は「V」と相違して、同聞衆について長い間にほとんど変化が見られなかった。したがって、古い仏伝を最も早い時期に取り入れたのは無量寿経であると言える。なお、『無量寿』および『如来会』には大乘の菩薩が釈尊の八相成道をたどったことが述べられているが、これも仏伝の影響を強く受けていることを示している。

無量寿経の同聞衆の後半は、阿含部・本縁部等の經典に見られるように舍利弗を初めとする同聞衆を用いたと思われる。なお、(一)比丘名の次第で無量寿経以外の形式。それらの意味するもの。伝統的な見方があるが、正しいか。(二)同聞衆として菩薩の場合。これらは今後考察したい。

- 1 衆会とも言う。2 無量寿経の同聞衆については、すでに柴田泰氏の論文がある。柴田泰「無量寿経説法会の比丘衆」『札幌大谷短期大学紀要』第四号。昭和四十二年) 3 Ajanta-kaundinya を「知本際」(本際を知る) Rahula を「王宮生」Ananda を「博聞」とする。4 藤田宏達博士校訂の無量寿経梵本によれば、この二語を別語とする写本多し。

〈キーワード〉『無量寿経』、同聞衆、仏伝

(都立葛西工業高校教諭)